

## 宮城県社会福祉審議会児童福祉専門分科会育成部会会議録

### 1 日 時

令和元年6月14日(金)午後1時30分から午後2時30分まで

### 2 場 所

宮城県行政庁舎11階 1101会議室

### 3 出席委員

- ・ 小幡佳緒里委員（会長）
- ・ 石垣政裕委員（副会長）
- ・ 佐藤あけみ委員
- ・ 佐藤善司委員
- ・ 高橋栄徳委員
- ・ 米竹隆委員

欠席委員 境政幸委員

### 4 傍聴人

なし

### 5 概 要

別紙のとおり

## 別 紙

### 1 開 会【司会：青少年育成班長】

7名中6名の委員が出席し、委員の半数以上を占めることから、宮城県社会福祉審議会条例第9条第2項の規定により、会議が成立していることを報告。

### 2 あいさつ【共同参画社会推進課長】

### 3 あいさつ【会長】

### 4 審議事項【議長：会長】

#### (1) 審議対象

本年6月5日及び6月10日に、仙台市青葉区、仙台市若林区内の書店、コンビニエンスストアで購入した図書9冊について、宮城県知事から宮城県社会福祉審議会委員長宛に青少年健全育成条例に基づく有害図書類の個別指定にかかる諮問がなされたことから、答申のための審議を実施した。

#### (2) 審議結果

対象図書9冊について、全て指定可の答申となった。

#### (3) 意見等

なし。

### 5 その他

(1) 事務局から、「平成30年度宮城県ネクストリーダー養成塾」について、実施結果の報告を行った。

#### (2) 意見等

(石垣政裕委員)

子ども達の感想はいかがですか。

(事務局)

チラシの裏面にも記載していますが、夢を持って、今後自分がどうやっていくべきなのか、分かったような気がするという意見や、他校との交流が刺激になったなどの意見がありました。

また、過去の卒業生に、このときの経験がどう活かしているか、というアンケート調査も行っていますが、心の糧になったなどの声もいただいております、9割以上の方から満足したとの回答をいただいております。

(石垣政裕委員)

こういう催しは、ただやった、というだけではなくて、子ども達の将来に、どう繋

がってくるか、というところがあって、初めて意義があるものと思いますので、そのようなアンケートは重要だと思います。

(事務局)

加えて、課の方で、卒塾生へのフォローアップ事業ということで、青少年政策モニター事業というものがあります。

これは、中学生から若い人たちに、県の事業に対して意見をもらうというもので、ホームページなどを活用して、一般の方も募集していますが、特に卒塾生に対しては、個別に募集を行っています。

また、高校生の夏のボランティアなどへの参加も働きかけています。

(石垣政裕委員)

その辺の全体像が見えてくると、これが単一の事業ではなく、沢山のことに繋がっていて、子ども達が自分の夢をどうやって行動につなげていくのか、ということが見えてくるとと思います。

今後機会があれば、説明をいただければと思います。

(佐藤あけみ委員)

対象は、全中学生ですが、個人の中学生の方が県のホームページにアクセスをして、応募することは少ないのではないかと思います。

生徒会の役員の方などを、学校が推薦することが多いのでしょうか。

(事務局)

お手元に配布しているチラシを、県内の全中学生に行き渡るように印刷して送付しているほか、春先には校長会を通じて、事前のお知らせもしております。

このような経緯もあり、学校から推薦される方よりも、個人で応募される方の方が多いという状況です。

インターネット環境がない方については、連絡をいただいて、応募用紙を郵送しております。

卒塾生の良い変化を学校で読み取って、学校が推薦するということもあります。

(米竹隆委員)

この事業は、今年で何回目になるのですか。

(事務局)

平成24年度から行っていますので、8回目になります。

(米竹隆委員)

そうすると、例えば、プログラムの中にある第一人者の講話の中に、第一回目、あるいは第二回目の卒塾生の中で、現在活躍されている方の経験などを盛り込むと、参加者は、この養成塾をより身近に感じ、興味を持つのではないかと思います。

卒塾生の今を追跡しきれぬかは分かりませんが、もし機会があれば、課題として考えていただければいいと思います。

(事務局)

卒塾生の先輩を呼んで講話をいただく，ということは，事務局でも検討中でした。  
改めて，検討して参りたいと思います。

## 6 閉 会